



平成 30 年 9 月 1 日現在

|     |       |
|-----|-------|
| 戸数  | 975   |
| 世帯数 | 2,374 |
| 人口  | 1,190 |
| 男   | 1,184 |
| 女   |       |

# 内田 ササラまつり

平成最後の夏、異常な暑さやゲリラ豪雨も心配される中、今年も地区最大の夏イベント「内田ササラまつり」が開催されました。

遠くでカミナリの音が響いていましたが、定刻通り午後5時、子ども会育成会長の開始の声で事前イベントの子どもササラまつりが始まりました。受付には沢山の子ども達が並び、わたあめ・かき氷・スイカ割り・スライム作り等を楽しんで、皆笑顔でした。育成会集計によると108人もの子が参加してくれたという事でした。きつとこの子たちが内田地区の未来を明るく輝かせてくれるでしょう。

日も暮れかけた頃、ササラ踊り実行会の皆様の演奏で踊りが始まり、公民館全体が賑やかな中にも厳かで、お盆らしいどこか懐かしい雰囲気

包み込まれました。まさに松本市重要無形民俗文化財第一号に相応しい素晴らしい空間でした。

心配されていた天候も崩れる事もなく、行事は順調に進み夜店開店の時間を迎えました。今年も体育委員会の皆様や、焼き鳥だけでなく焼きそばも作っていただけの事となり、いつもにも増して長蛇の列となり周囲の屋台を圧倒しました。わずか30分程で焼きそばは完売してしまい残念な声が囁かれています。野菜炒めとして復活という素晴らしい対応力で、参加者のお腹も気持ち

ちも満たしてくれました。そして最後も恒例となった町内公民館長会主催による、家庭が助かる賞品盛りだくさんのビンゴ大会が始まりました。テンポの良い司会進行のおかげで大人も子どもも真剣にカードと向き合い、一喜一憂しながら最後まで楽しんでいました。

この内田地区伝統の行事を成功させるには、数ヶ月前から準備を進めていただいた内田公民館の皆様、各町会から選出された役員の皆様、当日参加した内田地区の皆様やボランティアの中学生、全ての方々のつながりが必要でした。まさに平成最後にふさわしい盛り上がりでした。遠く山形村の打ち上げ花火もササラまつりの成功をお祝いしてくれました。

第五町会 赤羽 勝彦



# トウモロコシ もぎ取りまつり

「輝く太陽と肥沃な大地の恵み」夏野菜の代名詞ともいえるトウモロコシが、わずか五百円の入場料で十本お持ち帰りできる、内田営農主催の「トウモロコシもぎ取りまつり」が八月十一日に開催されました。今年も六月末に早くも梅雨明けとなり、まつり前には収穫期を迎えてしまうのではと心配されていましたが、「皆さんに美味しく食べてもらえるようトウモロコシがちゃんと待っていてくれた」と営農の方がお話されています。

もはや毎年恒例と言える行事となり、また本年は山の日の祝日と重なったこともあり、開始の一時前から順番待ちとなる盛況ぶりで、県外ナンバーの車も何台か駐車場に停まっています。お話を伺うと帰省中にこのまつりの開催を知ったそうで、「都会では考えられない本場に羨ましい行事。これからは毎年来たい」と語っておりました。

そしてやはり目立つのは子ども連れのグループ。ただ持ち帰るのではなく、直接もぎ取ることができるのがその人

気の一因でしょうか。

市内在住の方曰く、「内田の蕎麦は美味いとよく聞きますが、トウモロコシも美味しい」と。標高約七百メートル、寒暖の差もある上に太陽に近い分たくさんの光を浴びて育つ内田のトウモロコシは、甘さと旨味が凝縮されているのかもしれない。そして何より内田の皆様が、炎天のもと手塩にかけて育ててくれることが、「美味しい内田」ブランドを確立し広めてくれる最大の要因だと再認識しました。

平成最後の夏、例年になく厳しい暑さとなりましたが、お陰様で今年もたくさんのお客を頂戴しました。太陽と水と大地、そして内田営農の皆様への感謝の思いを込めて、来年も美味しいトウモロコシをゴチになります！

第一町会 近藤 栄祐



# 七町会の夏祭り



七町会夏の恒例行事「夏祭り」が7月29日に行われました。今年は東から西へと通過する異例のコースを辿る「台風12号」の影響で、開催時間の変更論議や開催も危ぶまれた中、心配した雨も降らず予定通り開催する事が出来ました。おかげで数日前の猛暑日と比べ若干ですが過ごしやすき一日でした。

初めは子ども達もまばらでしたが、徐々に集まり出しいつもの様に、ボールすくいやヨーヨー釣りを楽しんでいました。屋内では、町会役員さんの手作りボウリングや玉入れで遊び、順番を待ちながら賑やかに応援していました。いよいよ夏祭りも後半の「スイカ割り」。今年はちよっと変わったビーチボールをスイカに見立てた「ふわふわスイカ割り大会」。みんなの声を頼りにふわふわスイカを目指して、右へ左へ、一歩下がって「えいや」とも楽しそうでした。最後は子ども達全員でビンゴ大会。毎年趣向を凝らして開催していただく役員の方皆さんご苦労様でした。今年の夏も子ども達はとて楽しい一日を過ごしたと思います。

第七町会 増塩 信俊

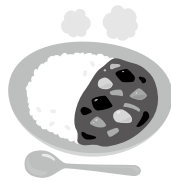
## 子どものための防災訓練・宿泊体験

7月30～31日に「子どものための防災訓練・宿泊体験」が内田公民館で開催されました。この行事は地域で災害が発生した時の対応を子どもたちが学ぶ機会として平成22年度から行われているものです。

今年は小学校1年生から中学校3年生までの合計15人の参加があり、災害救助用炊飯袋(ハイゼックス)を利用し

たカレライス作りや救急救命講習、避難所を想定した宿泊体験等に取り組みました。今回は実際の避難所でも使用される段ボールベッドや簡易テントを組み立てて、実際に寝てみる体験も行われました。

参加した子どもたちからは、「段ボールベッドが硬くて寝ずらかった」、「避難所生活の大変さが分かった」等の感想があり、防災について考える良い機会になったのではないかと思います。



## つれづれ編集記

国重要文化財「牛伏川階段工」の上流に「泥沢」があります。私がこの「泥沢」両岸山腹斜面で、明治時代に造られた縦・横の石積砂防施設群掘出し作業に係わってから6年になります。去年は236日今年もほぼ同じペースで通っています。

石積みの緻密で力強くガッチリ組まれた美しさに魅了され、造られてから100年以上経ってもビクともせず、私達を土砂災害から守っている明治期の石工職人達の技術・気概を感じて作業を続けています。

この石積み掘出し作業は、ツルハシ、スコップ等による手作業で夏は虻・やぶ蚊、秋は黒スズメ蜂・黄色スズメ蜂等の攻撃を防ぎ、冬は凍える寒さ・手足の霜焼けに耐えての作業です。

このような環境ですが清流があり、緑豊かで静かです。また、アサギマダラ・オオムラサキ等の蝶も訪れます。

シマリスも1m位の所で可愛らしい仕草をします。日本鹿は15m位の近くで草を「モグモグ」食べて、私の仕事ぶりを監督する等気持ちと和らげ、活力を与えてくれます。

第九町会 三澤 明男

